

A-112 食糧の消費傾向に関する一考察 (3)
消費傾向の地域性について

安城学園大 ○稲垣 翠
伊藤 茂
小林 玲子
佐々 洋子
尾林 純子

1. 最近日本人の食事形態は欧風化、近代化をとげつつあるといわれているが実態はどうであろうか。国民栄養調査をはじめ各種の調査結果をみると穀類比率の低下、動物性蛋白質の摂取の増加は全般的に進んでおり更にインスタント食品、洋風調味料の消費増加等がみられるがそれらが欧風化、近代化の傾向であると簡単にいい切ってしまうていいものでしょうか。

我々は従来よりの調査を通じて、消費食品数の増加により栄養摂取量の増加はもたらされたが、食事内容、例えば調理形態や献立様式の近代化が生活に定着するためにはまだまだ多くの問題点があることが分った。その問題点の一つとして食糧消費の実態がどのような要素に左右されるかを究明するため本研究を進めて来た。

2. 今回は沿岸農家として愛知県渥美郡赤羽根町、山間農家として岐阜県恵那郡串原村の調査資料より消費傾向の地域性について興味ある結果を得たので報告する。

3. 両地区の消費上の特徴は、動物性蛋白質食品の消費に差の認められたことである。即ち沿岸農家では動物性蛋白質の主な給源は生鮮魚介類であり山間農家では卵、魚肉加工品であった。又海草類も山間農家に消費量が多かった。両地区とも消費量の上では差は認められなかったが食品選択にそれぞれの地域の特徴が認められた。